

WEEK6 学びを促す評価

ワークシート目次

1. SESSION 1 評価の目的
2. SESSION 2 評価を設計する際のポイント
3. SESSION 3 ルーブリック(1)
4. SESSION 4 ルーブリック(2)
5. SESSION D ルーブリックを使う
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献

WEEK6 の目的と目標

目的 学生の学びを評価するための基礎知識を得て、評価の意義を理解し、活用できるようになる

到達目標

1. 評価の意義について説明できる
2. 形成的評価と総括的評価の特徴について説明できる
3. 評価の“評価”において重要な観点を説明できる
4. ルーブリックの基本構成を説明できる
5. ルーブリックの作成手順を説明できる



1. SESSION 1 評価の目的

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所でテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S1.Question1

- | | | |
|-------------|-----|-----|
| 1. 学期修了時に実施 | 総括的 | 形成的 |
| 2. 成績に含めない | 総括的 | 形成的 |
| 3. 発展的課題を含む | 総括的 | 形成的 |

2. SESSION 2 評価を設計する際のポイント

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S2.Question1

評価をするための方法としてはどのようなものがありますか。過去に受けた授業などでの評価方法を思い出してあげてみましょう。

W6.S2.Question3

センター試験は4つの評価観点からみてどうでしょう。4つの評価観点の高低について考えてみましょう。

3. SESSION 3 ルーブリック (1)

下記はこのセッションで使う Handout です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S3.Handout

グループによるオムニバス講義の模擬授業を評価するためのルーブリック			
グループ	() 年 月 日		
	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり、よい構成であった	全体として統一感をもたせようとした努力がみられた構成であった	全体として統一感に乏しく、各トピックがばらばらの印象を受けた
レベル設定	初学者にとって、全体が「少し手を伸ばせば届くレベル」の適切な教授内容であった。	初学者にとっておおむね「少し手を伸ばせば届くレベル」であったが、一部高度なところ、あるいはやさしすぎるところがあった。	初学者にとって全体が高度すぎる、もしくは、極端にやさしすぎる内容であった。
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自分で勉強してみたいと興味を持った	授業内容について授業中はとても興味をもって聞けて満足したが自分でさらに勉強しようとは思わない	授業内容について特に興味をそそられることはなかった
相互作用の機会	学生個人に質問を投げかけたり、全体に問いかけたりするなど相互作用の機会をたくさん作り、学生を巻き込むことに成功していた	学生個人に質問を投げかけたり、全体に問いかけたりするなど相互作用の機会をそこそこ作っていた	学生個人に質問を投げかけたり、全体に問いかけたりするなど相互作用の機会がほとんどなかった
熱意	内容に対する愛、情熱が授業の初めから終わりまでずっと伝わってくる	内容に対する愛、情熱がところどころ伝わってくる	内容に対する愛、情熱があまり感じられない
メディアの利用	板書、パワーポイント、配布資料などが特性を活かして活用され、学習の促進に役立っていた	板書、パワーポイント、配布資料などについて慣れていないところがみられたが、おおむね学習の促進に役立っていた	板書、パワーポイント、配布資料などについて慣れておらず、学習が妨げられた
実践性	すぐにそのまま使えるコンテンツである	少し工夫すれば使えると思われる	このままでは使えないと思われる
コメント用スペース			

4. SESSION 4 ルーブリック(2)

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所でテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S4.Question2

評価基準は“評価尺度×評価観点”の数だけあります。評価基準をどのような順序でつくとよいと思いますか？考えてみましょう。

5. SESSION D ルーブリックを使う

今週は評価について学びました。このワークでは予めルーブリックでレポート課題を採点していただき、ルーブリックのメリット・デメリットについて考えてみましょう。

W6.D

次のページにアクティブ・ラーニングに関するレポート課題とレポート例、それに採点のためのルーブリックがあります。ルーブリックを活用して、レポート課題を採点してみましょう。具体的には、レポート課題を読み、各観点の該当する評価基準に○をつける、という作業になります。採点がおわったら、実際の採点作業を通じて感じたことも含め、ルーブリックを使用することのメリットおよびデメリットについて考えてみましょう。

また、改善案がある場合には、掲示板で共有してみてください。

(メリット)

(デメリット)

以下の課題に対する、4つのレポートを採点してください。

課題：「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か。いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。
参考文献表を覗いて、150～300字で論じること。

レポート1

私は、「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成である。

その理由は、佐藤（2010）が指摘するように、「学生が主体的に考えるきっかけを作る」「能動的な参加の機会を持たせる」「競争を促すことで、積極性を引き出すことができる」というメリットがあるからである（p. 17）。また、バークレイ・クロス・メジャー（2009）は、グループで行うアクティブ・ラーニングの一つである協同学習に関して、学習効果と学生の満足度の両面から、その効果の高さを示す多くの実証研究があることを指摘している（pp. 11-16）。

参考文献

佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010年
エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア＝メジャー『共同学習の技法：大学教育の手引き』、安永悟監訳、ナカニシヤ出版、2009年

レポート2

佐藤(2010)が史的するように、「学生が主体的に考えるきっかけを作る」「能動的な参加の機会を持たせる」「競争を促すことで、積極性を引き出すことができる」というメリットがある（p. 17）。だから、アクティブ・ラーニングが取り入れるといいと思います。

また、私は先生が離すばかりの授業だとずっと寝ていた。でも、一度だけ教育実習の先生が来たときにしたグループ活動の内容はイマでも覚えているから、アクティブ・ラーニングは効果があると思います。

参考文献

佐藤浩章編（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010年

レポート3

私は、大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきだと思う。

その理由は、学生の学びを深めるには、アンブローズほか(2014, 第3章)が言うように、学生のモチベーションを高めることが重要だからである。モチベーションを高めるには、学生にとっての「主観的価値」の高い目標、すなわち学生自身にとって重要な目標を立てることが重要である。また、実際に授業を履修することで、その価値を達成できるというポジティブな結果予期を持たせることと、協力的な環境を作ることも重要である。このような仕方、学生のモチベーションを高めるべきである。

参考文献

スーザン・A. アンブローズ、マイケル・W. ブリッジズ、ミケーレ・ディピエトロ、マーシャ・C. ラベット、マリー・K. ノーマン『大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための7つの原理』、栗田佳代子訳、玉川大学出版部、2014年

レポート4

私はこれまで、アクティブ・ラーニング形式の授業を受けたことがない。しかし、ぜひ受けてみたかったと感じている。特に、初年次に受けた選択科目の教育思想の授業では、先生の話が全く理解できず、寝てしまうことも多かった。テストでも失敗し、単位を得ることもできなかった。あの授業の問題点は、アクティブ・ラーニングを取り入れなかったことにある。初等・中等教育ではなおさらである。

私は、中学校の教員を目指している。中学での授業には、大学以上に、飽きさせないための工夫が必要である。このため、アクティブ・ラーニングの手法についてこれからも学んで、授業を改善していきたい。

採点用のルーブリック

下記は評価に用いるルーブリックです。各レポート課題を読み、例えば、構成の「立場の表明」に関して、理想的／標準的／要改善のいずれかの評価基準に照らし、該当する基準に○をつけてゆきます。（このルーブリックには各評価尺度に点数を付していませんので、○をつけるところで採点作業は終わりです。） レポート課題の数だけ、つまり4枚のルーブリックが用意されています。

レポート 1 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

レポート 2 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

レポート 3 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

レポート 4 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

6. セッション課題一覧

ここには、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W6-1 評価の意義および特徴についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 評価は、学生にとって、到達度の把握を促すとともに学びの支援にもなり得る。
- 2) 評価は、教員にとって、学生の理解度の確認を促し、支援をしやすくするとともに、授業改善にも役立てられる。
- 3) 評価は、社会にとって、大学や学部、教員の説明責任を果たさせ、質保証につなげる意義を持つ。
- 4) 学習のプロセスを支援する役割を持つ「形成的評価」と、達成された学習成果を測定するための「総括的評価」があるが、期末試験などでは、学生の成長を測るためにも「形成的評価」を意識して評価を行うのが望ましい。

W6-2 評価の正当性を評価するための4つの観点の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 「妥当性」とは、測ろうとしている能力や行動を測るに適している評価方法かどうか、を問う。
- 2) 「信頼性」とは、ある集団の回答の信ぴょう性のことをいう。
- 3) 「客観性」とは、異なる採点者が採点しても同じ結果になるかどうか、を表す。
- 4) 「効率性」とは、評価後にどれほど不服申し立てや問い合わせが発生しづらいか、をいう。

W6-3 評価方法としてのルーブリックの説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) ルーブリックとは、選択式の試験解答などを採点する際に有効な評価方法である。
- 2) ルーブリックとは、プロジェクトやレポート、実技などのパフォーマンスを評価する際に、評価基準を具体化しないまま総合的に評価するために役立つ評価方法である。
- 3) ルーブリックには、ある課題についての評価の観点、尺度、および基準を記すのが基本である。
- 4) 採点後のルーブリックを見ることで、学生は、教員が習得を期待していたスキル・知識に関して、自分がどの程度まで達成することができたのかを理解し、具体的なフィードバック内容も得ることができる。

W6-4 ルーブリックの作成についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) ルーブリックを最初から新しく作成する方法の他に、既にあるルーブリックをもとに作成できることもある。
- 2) ルーブリックを作成するには、評価の観点を思いつく限り列挙し、できるだけ詳細に作成することで、「信頼性」や「効率性」を高めることができる。
- 3) ルーブリックを作成する際、評価の尺度は、評価の基準を決めてからでないと定められない。
- 4) ルーブリックに記す評価の観点を考える際には、その授業の目的・目標を確認し、対応させるとよい。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげたトピックに関する文献等)

Angelo, T. A. & Cross, K. P. (1993) Classroom Assessment Techniques: A handbook for College Teachers. 2nd Ed., Jossey-Bass:CA

主に教室内の評価方法についてたくさんの方が紹介されています。

ダネル・スティーブンス他 (2014) 『大学教員のためのルーブリック評価入門』 玉川大学出版部

ルーブリックについて平易にかかれています。

夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子(2010) 『大学教員準備講座』 玉川大学出版部

評価について簡潔にまとめられています。

佐藤浩章編(2010) 『大学教員のための授業方法とデザイン』 玉川大学出版部

評価についてわかりやすくごく簡潔にまとめられています。